

同種造血幹細胞移植は、白血病や骨髄異形成症候群、再生不良性貧血などの難治血液疾患患者さんに対して、治癒を目的に行われる治療です。同種造血幹細胞移植には、骨髄移植、末梢血幹細胞移植、臍帯血移植があります。骨髄移植や末梢血幹細胞移植は、血縁ドナー、骨髄バンクドナーなどから骨髄や



賀川 久美子 講師



徳島大学病院血液内科

末梢血幹細胞の提供を受けて行います。臍帯血移植は、臍帯血バンクにあらかじめ保管されている臍帯血を用いるため、迅速に移植が行えます。

徳島大学病院細胞治療センターでは、難治血液疾患患者さんに対して、造血幹細胞移植を積極的に行っていきます。移植治療は通常、無菌室で行いますが、当センターは、フロア全体が無菌環境となっているため、移植中の患者さんも個室に隔離されることなく、デイルームなどで自由に過ごすことができます。また、医師、看護師、薬剤師、歯科医師、歯科衛生士、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、臨床心理士など多職種スタッフが一堂に会し、個々の患者さんについて話し合い、患者さんを中心としたチーム医療を実践しています。

# 同種造血幹細胞移植とは

移植治療は抗がん剤や放射線治療に引き続いて行うため、移植後には副作用として、血球減少や発熱、下痢などが出現します。移植後3週間ほどで血球が回復し始めますが、この頃より移植片対宿主病(GVHD)が出現するほか、しばらくは免疫低下状態が続くため、種々の感染症も出現し、それぞれに対する治療が必要です。移植後3カ月ほどで退院可能となることが多いですが、長期の入院が必要になる場合もあります。

退院後も、移植患者さんの体調が十分に回復するには数カ月以上を要します。GVHDや移植後遺症に対する治療などが必要であるため、移植フォローアップ外来で、医師や看護師、薬剤師など多職種スタッフが患者さんをサポートしています。このような移植療法で、一人でも多くの患者さんに治癒がもたらされることをお祈りします。